

F I T 特例制度①の発電想定方法

1. 想定方法

(1) 太陽光

気象庁数値予報データ（G P V）を入力データとして20kmメッシュごとの日射量予測を行い、それらの予測値と北陸エリア内の設備量を以下の式※に代入して発電出力に換算（日射量予測は外部委託にて実施）。

※ 出力＝日射量予測値×設備量×換算係数×余剰率

(2) 風力

気象庁数値予報データ（G P V）を入力データとして風況計算を行い、WF設置点ごとの風況予測に基づき、誤差補正等を加えて北陸エリア一括の発電出力を予測（外部委託にて実施）。

2. 配分の考え方

当社が想定したエリア全体の電力量（電源種別ごと・30分単位）を小売電気事業者の購入電力量実績比率（電源種別ごと、3か月前実績※）で配分する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{小売電気事業者 A の} \\ \text{B G 毎に配分する} \\ \text{電力量} \\ \left[\begin{array}{c} \text{電源種別ごと} \\ \text{30分単位} \end{array} \right] \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{エリア全体の} \\ \text{想定電力量} \\ \left[\begin{array}{c} \text{電源種別ごと} \\ \text{30分単位} \end{array} \right] \\ \hline \end{array} \times \frac{\begin{array}{|c|} \hline \text{小売電気事業者 A の} \\ \text{B G 毎の購入電力量} \\ \text{(電源種別ごと、3か月前実績)} \\ \hline \end{array}}{\begin{array}{|c|} \hline \text{エリアの全小売電気事業者および} \\ \text{全送配電事業者の購入電力量} \\ \text{(電源種別ごと、3か月前実績)} \\ \hline \end{array}}
 \end{array}$$

(注) 新規に調達を開始し、3か月前の購入電力量実績が無い場合は、同一の電源種別の平均原単位（3か月前実績ベース）に認定出力（kW）を乗じた値を購入電力量（3か月前実績）とみなして、配分電力量を算定する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{平均原単位} \\ \left[\begin{array}{c} \text{電源種別ごと} \end{array} \right] \\ \hline \end{array} \left[\text{kWh/kW} \right] = \frac{\begin{array}{|c|} \hline \text{エリアの全小売電気事業者および} \\ \text{全送配電事業者の購入電力量 [kWh]} \\ \text{(電源種別ごと、3か月前実績)} \\ \hline \end{array}}{\begin{array}{|c|} \hline \text{エリアの全認定出力合計 [kW]} \\ \text{(電源種別ごと、3か月前認定量)} \\ \hline \end{array}}
 \end{array}$$

※ 3か月前実績（月間値）を用いるのは、料金の算定期間を考慮。